

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：24303

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10157

研究課題名(和文) 地域での暮らしを見据えた在宅療養支援を実践できる外来看護師養成プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of an educational program for nurses working in hospital outpatient clinics on practical skills to support home care

研究代表者

滝下 幸栄 (Takishita, Yukie)

京都府立医科大学・医学部・准教授

研究者番号：10259434

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、地域包括ケアシステムのさらなる進展に向けて、病院外来における在宅療養支援を実施できる外来看護師の看護実践能力の教育プログラムを開発することであった。質問紙調査、面接調査、複数回の外来看護研修の成果を踏まえ、実現可能な教育目標ならびに押さえるべき教育内容、期待されるラーニングアウトカムの同定ができた。また、アクションプラン策定を目指した教育方法を設定できた。その教育プログラムの実施と評価については、COVID-19の影響により、対面での研修ができなかった。一部の内容をオンライン研修にて行った結果、在宅療養支援のイメージ化と取り組みポイントの理解が進んだことが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

外来業務の現状と在宅療養支援の取り組み状況、看護師の課題意識、学習ニーズ、在宅療養支援を可能とする看護管理の実際等、本研究で明らかにした詳細な内容は、今後、各組織において外来研修を企画する上で重要な指針を提供するものである。日本看護協会では、2023年10月から外来看護師研修が実施される。また、都道府県看護協会での研修企画のリソースとして利用されている。

研究成果の概要(英文)：This study was conducted to advance nursing in the community. This study is an educational program for nurses working in a hospital outpatient setting. The purpose of this program is to enable home care support. We conducted a survey using a questionnaire and an interview survey. In addition, we conducted an educational evaluation after the outpatient training. From these results, we were able to obtain the following results. 1. Achievable educational goals. 2. Specific educational content. 3. Expected Learning Outcomes. 4. effective teaching method. Education with this program did not come to full implementation due to the spread of the COVID-19 pandemic. However, we have implemented part of this program. As a result, it was effective in enhancing the nursing practice ability of outpatient nurses.

研究分野：看護学

キーワード：地域包括ケアシステム 在宅療養支援 外来看護 看護継続教育 看護管理

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの進展に伴い、地域・在宅と病院を結ぶ重要な機能として外来看護が重要視されていた。外来では、高齢患者や慢性疾患患者の増加に加え、在宅においても医療処置が必要な患者や管理能力が未確立の患者等、医療依存度が高い患者が増加していた。「治す医療」から「治し支える医療」への転換が求められる中、看護職は医療と生活の両方の視点を持ち、具体的な実践ができることから、外来での役割強化、中でも外来患者とその家族への在宅療養支援が重要な業務として着目され始めていた。しかし、在宅療養支援能力に主眼をおいた外来看護実践能力研修の実践は少なく、教育プログラム案の提示が必要であった。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、地域包括ケアシステムのさらなる推進に向け、病院外来において患者とその家族に在宅療養支援を実施できる外来看護師を育成する教育プログラムを開発することである

### 3. 研究の方法

#### 1) 教育内容と教育方法同定のための予備調査

所属の看護協会看護師職能委員と共に当該地域の病院(特定機能病院、地域医療支援病院、一般病院、回復期リハビリ病院)の看護管理者と外来看護師を対象とした「外来における在宅療養支援の現状と課題、学習ニーズ」に関する質問紙調査、並びに「外来における在宅療養支援グッドプラクティス」に関する面接調査を行った。

2) 上記内容と先行研究を元に教育プログラムを策定し、研修を実施する。研修後に質問紙による教育評価を行う。

### 4. 研究成果

1) 2018年度は、外来の在宅療養支援の現状と看護師にどのような役割と期待があり、どのような人材が求められているのかを明らかにすることを目的に、20床以上の病院施設の外来に勤務する看護師と看護部長に質問紙による調査を行った。その結果、看護部長を対象とした調査では、在宅療養支援が必要な患者に対して情報収集や情報共有、看護外来の場などを利用とした指導、訪問看護や訪問診療同行等様々な支援が展開されていることが明らかとなった。看護部長の多くが外来における在宅療養支援は地域包括ケアを推進するために重要であり、もっと進めていきたいとの考えを示していた。一方で、外来のマンパワーの不足や勤務体制、看護師の知識とスキルの不足等が在宅療養支援展開上の障壁となっていた。それらの解決にむけ、明確な診療報酬の設定や外来業務の整理や人員確保等が必要との見解が示された。また、当該領域の研修会や職種交流の場、人事交流の機会を求める声が見られた。外来看護師を対象とした調査では、病院外来において在宅療養支援が必要な患者に対して病状の把握や受診時の観察など情報収集・アセスメントに関連した実践が多く行われていることが明らかとなった。病状説明の調整やカンファレンス、ソーシャルワーカー等との連携など具体的な実践も展開されていた。外来看護師の多くが、外来での支援は重要であるが現状では難しいとしていた。具体的には人員不足や知識・スキルの不足があり、業務整理や系統的な教育の必要性を上げていた。学習ニーズは、診療報酬や制度理解、職種連携に関するものが多かった。また、単発の研修会ではなく系統的な学習機会

を設けることや交流の場を作っていくこと、ネットワークの強化等の要望が見られた。

2) 2019 年度は、質問紙調査から明らかとなった在宅療養支援が進展している病院の看護部長 10 名と外来看護師 12 名を対象とした半構造化面接による調査を行った。内容分析を行った結果、看護管理者では、コード数 187、サブカテゴリー数 60、カテゴリー数 22 が抽出された。外来看護師では、コード数 231、サブカテゴリーは 60、カテゴリーは 28 抽出された。具体的には、在宅在宅療養支援進展の要因では「支援を展開しやすい組織規模と病院機能」、「研修やワーキングなどの自主的活動の展開」、「組織間の情報の共有と相互支援システムの形成」等のカテゴリーが、過去の課題では「外来の業務管理・他部門との連携に関する課題」、「外来看護人材の育成に関する課題」等が抽出され、課題克服では「問題分析と効果的な目標管理の展開」等があげられた。外来教育では「事例検討、カンファレンスを通しての学習機会の創出」、「目標管理の一環としての集合教育の設定」等が、組織努力では、「目標管理と組織への浸透の努力」、「ボトムアップを支援し、職場改善、変革を志向する組織風土の醸成」等のカテゴリーが抽出された。

在宅療養支援を進展させるための看護管理として、組織目標管理を基盤とした体制の整備や教育の展開、組織の自主性を重視した運営が行われていた。課題として、他組織との連携や継続教育、患者の受け入れ等があり、それぞれの問題状況に即した課題克服の対策がなされていることが明らかとなった。

3) 2020 年度は上記の調査内容や先行研究を元に教育プログラムの策定を行った。以下に概要を示した。

項目	内容
教育目的	外来看護を取り巻く社会情勢と期待される役割を理解し、外来患者を支えるために必要な在宅療養支援に関する知識を習得すると共に、所属組織における外来看護機能強化への具体的指針を得ることが出来る
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来看護を取り巻く現状と課題、地域包括ケアシステムならびに診療報酬制度における外来看護の機能と役割について理解できる</li> <li>外来における在宅療養支援のプロセスと具体的実践内容を理解できる</li> <li>地域支援者と連携・協働して展開する外来看護の活動内容を実践事例から学ぶことができる</li> <li>外来における意思決定支援、自立（セルフケア）支援、ネットワーク構築・参画、チームングの重要性と実践方法を学ぶことができる</li> <li>上記を踏まえて、所属組織ならびに地域の実情から在宅療養支援を展開する上での課題と課題解決の方向について明らかにできる</li> </ul>
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政策動向</li> <li>・ これからの外来看護機能：期待される外来機能と外来看護師の専門性</li> <li>・ 在宅療養支援、外来機能強化に向けた仕組み作りナレッジ</li> <li>・ 「かかりつけ医」機能と外来看護</li> <li>・ 外来での在宅療養支援内容：スクリーニング、アセスメント</li> <li>・ 外来での意思決定支援、ACP 支援</li> <li>・ 外来での自立支援</li> <li>・ ネットワーク参画：病院チーム、在宅チーム、看看連携、多職種、地域連携、カンファの持ち方</li> <li>・ 他施設の実践内容と課題共有</li> </ul>
期待される ラーニングア ウトカム	外来看護実践能力を形作る基本的知識の習得 在宅療養支援の確実なイメージ化 所属組織の課題の明確化 課題解決に向けた具体的指針の習得
教育方法	2日間プログラム（10時間程度） 対面講義と演習（SGD） 講義の一部はオンデマンド教材化
教育評価	プログラムごとのリアクションペーパー 研修後の質問紙調査：目標到達度、学習の難易度他 外来看護師の尺度調査

4) 2020年～2021年度において上記の教育プログラムの実施を検討したが、COVID-19の蔓延のため、研修計画を中止せざるを得ない状況であった。2022年度においても第7.8派のために、対面研修が難しかった。A地区でのネットワーク事業における外来看護師研修において、上記の一部のプログラムをオンラインにて行った。その結果、研修参加人数は21名で、70%以上のものが在宅療養支援につながる活動、外来看護の質向上につながる取り組みポイントがよく学べたとする一方で、自施設での実施については消極的な傾向が見られた。今後、対面での2日間プログラムを実施予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 滝下幸栄、中津みつる、西本道子、南田喜久美、山川京子、中尾淳子、林 眞里	4. 巻 31
2. 論文標題 病院外来における在宅療養支援を促進する看護管理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京府医大看護紀要	6. 最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 南田喜久美、滝下幸栄、西本道子、中津みつる、山川京子、中尾淳子、林眞里	4. 巻 31
2. 論文標題 病院外来における在宅療養支援に対する看護管理者の課題認識	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京府医大看護紀要	6. 最初と最後の頁 37-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 滝下幸栄、南田喜久美、中津みつる、西本道子、山川京子、林 眞里	4. 巻 32
2. 論文標題 病院外来における在宅療養支援の実践状況と外来看護師の課題認識	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 京府医大看護紀要	6. 最初と最後の頁 79-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 滝下幸栄、中津みつる、山川京子、南田喜久美、林眞理、西本道子、中尾淳子
2. 発表標題 病院外来における在宅療養支援を促進する看護管理
3. 学会等名 第52回日本看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中津みつる、滝下幸栄、西本道子、林真理、南田喜久美、山川京子、中尾淳子
2. 発表標題 病院外来における在宅療養支援進展に向けた課題への対応 - 病院看護管理者への聞き取り調査から
3. 学会等名 第52回日本看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西本道子, 滝下幸栄, 南田喜久美他
2. 発表標題 病院外来における在宅療養支援内容とその効果
3. 学会等名 第51回日本看護学会（在宅看護）オンライン開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 南田喜久美, 滝下幸栄, 中尾淳子他
2. 発表標題 病院外来における在宅療養支援展開における課題とその対策
3. 学会等名 第51回日本看護学会（在宅看護）オンライン開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝下幸栄, 南田喜久美, 山川京子他
2. 発表標題 病院外来における在宅療養支援に対する外来看護師の認識と学習上のニーズ
3. 学会等名 第50回日本看護学会（看護管理）学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山川京子, 滝下幸栄, 南田喜久美他
2. 発表標題 病院外来における看護業務状況と在宅療養支援に関する取り組み
3. 学会等名 第50回日本看護学会(看護管理)学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南田喜久美, 滝下幸栄, 中尾淳子他
2. 発表標題 病院外来における在宅療養支援の取り組みと支援展開上の課題 - 看護部長を対象とした調査から
3. 学会等名 第50回日本看護学会(看護管理)学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	岩脇 陽子  (Iwawaki Youko)  (80259431)	京都府立医科大学・医学部・教授   (24303)	
研究 分担者	松岡 知子  (Matsuoka Tomoko)  (90290220)	京都府立医科大学・医学部・教授   (24303)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------